

8月7日 ソフィアさんコンサル

【モニター講座のポイント】

人の脳は「快」を期待する状態を優先する。
この講座を受ければ「快」「心地よさ」が手に入るという期待が描ける状態にモニターさんを導くことが大切。

【モニター集客の基本的な導線】

どんなお仕事も「集客→教育→販売」の3ステップで構成されています！

- ①SNSで集客（フォロワーさんと繋がる）
- ②SNSで教育（心や感覚の可視化の重要性を伝える）（これで私は変わったというエピソードで共感を生む）
- ③SNSでモニター募集、販売

このステップだと、事前に教育（価値の翻訳）が概ね済んだ状態で期待感を高めた状態で、モニターを受け付けられる。

●コンテンツに確信を持つ

「感覚の言語化」「心の可視化」のメリット、効能、価値は非常に高い。
人生で一度はやるべきコンテンツ。

●でも、全ては「確率」

私の瞑想無料セミナーでも、そこから有料講座に申し込む人は
高くて30%、低くて10%（それでも世間的に言えば高い）

●ネガティブなフィードバックは参考にするけど、振り回されない。
沢山の未来のお客さんの内の、たった1つの意見。

●重要なのは「慣れ」

語り慣れていくことで、モニターさんの参加意欲の高め方が分かっていきます！

【モニター講座で序盤に伝えるべきこと】

ソフィアさんのメソッドの「有効性」をイメージ的に伝えられると強いです！

「心の可視化」のメリット

心を言語化して、見える化することは
頭を整理する基本。

「心を整えるのは
シンプルなんだ」

「心を見る化すると
人間関係の整理の仕方が分かり
人生が前に進んでいく」

「人間関係の不和は辛いけど
世間ではサポートがない（ほっとかれてしまう）」

「でも、人生の土台は「人間関係」
そこからあらゆる健康が始まる。」

→だから、ソフィアさんのメソッドが必要

というような見せ方があると良いです👉

1. ゴール設計の明確化と“見える化”

● 課題

モニターさんが抱いた不安は、
「この講座で本当に変われるのか分からぬ」
という 未来への不透明感 。

● 改善策

- 最初に“全体像”を見せること
 - 受講の 4 ステップ (例: 気づき → 小さな行動 → 習慣化 → 自己変革)
 - 受講後にどう変わるかを図解やイラストで示す
- 成果のミニゴールを設定すること
 - 1 回目で得られる“小さな変化”を明確に
 - 例: 「自分の思考の癖に気づく」「今日から 1 分でできる習慣を持ち帰る」

2. 初回講座の構造の見直し

● 現状のリスク

- 情報が多く、抽象的な理解で終わった可能性
- 参加者が「自分にできる」と思えなかった可能性

● 改善の方向性

- 共感と期待を作る導入
 - 「あなたと同じ状況から変わった事例」を最初に提示
- ワークで“できた感”を提供
 - 体験型のワークで、変化の兆しを実感させる
- 次回への希望を残すクロージング
 - 「今日はここまで、次回は○○を解決します」と明確に予告する

3. 信頼と安心感を生む工夫

● 不安の原因

- 講師としての「導き方」が抽象的だと、参加者は未来を描けない
- モニターは特に、「この人についていけば大丈夫」と思えなければ離脱する

● 改善策

- 成功事例や体験談を入れる
 - 過去の自分の変化や、実践で得られた結果を物語化
- 講師の伴走感を見せる
 - 「一緒に取り組んでいきましょう」というスタンスを強調
- フォローアップを充実させる
 - 講座後に簡単な「ワークの振り返りシート」やメッセージを送る

◆ まとめ：ブラッシュアップの優先順位

1. 初回での小さな成功体験を確実に作る
2. 講座全体の変化プロセスを可視化する
3. 未来への期待感と安心感を提供する設計にする

次回からは、初回講座で「希望と手応え」を渡すことに全力を注ぐと、受講生は自然と継続意欲が高まります。

【初回講座ブラッシュアップ用 改善チェックリスト】

① 参加者に未来が見えるか

- 講座全体のゴールや変化プロセスを、スライドや図で示している
- 「この講座を続ければこうなる」という未来像を1分で説明できる
- 4回講座の全体像（ロードマップ）を最初に見せている

② 初回で小さな成功体験を提供できているか

- 受講後に「1つ実践できること」が必ずある
- 参加者が自分の変化の兆しを実感できるワークがある
- 「できた」「分かった」「気づいた」と思える瞬間を設計している

③ 参加者の不安を払拭する工夫があるか

- 事例や講師自身の体験談で「変われる根拠」を伝えている
- 「一緒に進めば大丈夫」という安心感を言葉で伝えている
- 講座後のフォロー（ワークシート・振り返りメッセージ）がある

④ 講座の流れがシンプルで楽しいか

- 情報を詰め込みすぎず、感覚的に理解できる構成になっている
- 冒頭に共感、中央に体験ワーク、最後に未来への期待で締める構成
- 講座中に「笑顔・頷き・書く時間」をバランスよく入れている

⑤ 次回への期待を作れているか

- 「次回は〇〇を扱います」と予告がある
- 宿題やワークで次回が楽しみになる仕掛けがある
- 初回の学びが、次回の内容につながるように設計している